

一枚の写真

信 樂 慧



これは、私が写真を初めてすぐに安楽寺の内陣を撮影した写真です。そこから10年ほど多くの失敗や気付きを積み重ねて、今ではより綺麗に写真を撮れるようになったと自負しています。

安楽寺寺報

閑 光

第104号 歡喜会号

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL: 0823-21-7561

大谷本廟にお参りしました



安楽寺のお仏壇があります。



参道には睡蓮が咲いています。

今号の1面のお話は、日々の過ごし方を考えさせられるお話だと感じました。勉強や練習をすればするほど理解できなくなる経験と聞くのと難しく聞こえるかも知れませんが、有名な言葉で「無知の知」という言葉があります。「この言葉は、」自分に知識がないことを自覚し、それに気づいたものは、それに気づかない者よりも賢い」と言った意味です。物事を全てわかっていて思っている人のほとんどは、物事の表面だけを見てわかっている気になっているだけなのです。努力をすればするほど、物事の深さを知り、自分が全てを理解していないと気づくのがわかるのです。「このことを思い出したお話でした。そして、いくつになっても、学ば姿勢を忘れないようにしなければならぬ」と考えさせられました。

めぐみ

安楽寺マンガ通信

その54 信楽めぐみ作

この季節は熱中症が危険視されます。皆さんは水分をきちんと摂取していますか？



最近暑い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしですか？

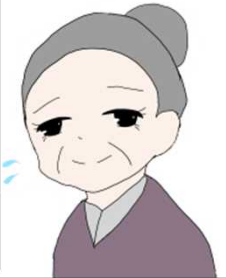
思ったよりも多い量だと思えます！ただ、水を飲むことで、血流改善や便秘解消や脳梗塞の予防などメリツトはたくさんあるのです。



コップ × 10
= 約200ml

1日、どれくらいお水を摂取していますか？体重や年齢にもよりますが実は1日約2リットルは摂取することを勧められています。

年齢とともに喉が乾いたことを感じにくくなり、高齢者の方ほど水の摂取が遅くなってしまうのです。すく危険なことなのです！



また、皆さんの水を飲むタイミングってどんな時ですか？朝一とか、食事中とか、喉が乾いてからという人が多いと思いますが、実はそこに落とし穴があるのです。

そのため、今日からでも、喉が渴かなくても意識的に水分をとるようにして、今年の夏は熱中症予防を心掛けましょう！



編集後記

私は今仏教を学ばせてもらっていますが、最近仏教を勉強すればするほど祖父信楽峻磨が言っていた「信心をいただく」ということが、実感として分からなくなっているのを感じています。仏教の論理を少しずつ理解していく中で、自分を顧みる瞬間も増えました。ただ、顧みればみるほど、自分の浅ましさが見えてきます。そんな自分にも仏様からの働きかけがある。論理として理解はできますが、実感を持って納得ができていませんでした。

皆さんは練習や勉強をすればするほど物事が理解できなくなるといふことを経験されたことはないでしょうか？

祖父信楽峻磨は「個別具体的な宗教体験は、他人から聞いたらエキセントリック(突飛)に感じられるが、本人にとっては重要な宗教経験であり、劇的なように見えるが、小さな気づきが積み重ねて本物になっていく、それが大切である。」と言っていたそうです。本当にそうだなと思えました。



仏教を勉強させてもらっていて、たしかに前より知識は増えて少し理解した気になっていても、本当のところは何にも分かっていない。本当に小さなことかもしれませんが、日常生活でこういった小さな気づきを重ねていくことこそが、在家者の仏道を歩むということだと実感しました。

「鎌倉の時」その2

信楽 晃仁

NHK大河ドラマの「鎌倉殿の十三人」が人気を博しています。物語も源頼朝が亡くなり、いよいよこれから本番です。トップがなくなることと御家人同士の権力闘争が勃発し、戦や暗殺が次々と起こります。源頼朝の子、源頼家が第二代將軍となりますが、御家人たちにより十三人の合議制によって、物事を決定する仕組みがとられるようになり、それが十三人の意味ですが、ここから大河ドラマでは北条氏が権力を握っていく様子が放送されるのだと思います。

そうした北条氏が権力闘争に勝利し、三代執権北条泰時の時のことです。

親鸞聖人の曾孫にあたる覚如上人がつくった『口伝鈔』に出てくる話があります。

ある時、親鸞聖人は北条の邸に招かれて「一切経」の校合をしたそうです。いわば校正のアルバイトです。それも食事付のアルバイトでした。その食事は精進料理ではなく魚や鳥の肉が使われたものだったそうです。

他の僧侶達は、それを見て袈裟を脱いで食事をしていましたが、親鸞聖人一人が袈裟をつけたまま、食事をしていました。

そこに当時九歳であった北条時頼が、その姿を見て親鸞聖人に尋ねるのです。

「他の僧たちは袈裟を脱いでいるのに、そなたはなぜ袈裟をつけたままなのか……？」

その問いに親鸞聖人は応えられて、「あの人たちはご馳走を食べつけておられるので肉食のときは袈裟を脱ぐものだと知っておられます。わたしはこういうご馳走をいただくことは滅多にないので、袈裟を脱ぎ忘れたのです。」

北条時頼は、親鸞聖人のそんな返事は嘘だと思っただけですが、その時は引き下がったそうです。しかし後に、同じ場面が来たそうです。その時、時頼は同じ質問を親鸞聖人にしました。親鸞聖人は、またしても「脱ぐのを忘れた」と答えられるのですが、時頼は、今度は承知しなかったということです。そんなに度々脱ぎ忘れるはずがない。本当のことを言えと親鸞聖人に迫ったそうです。

そこで親鸞聖人は、九歳の幼童に向かい、こう語ったと言われます。

「私は戒を破って肉食をしています。悪事だと思いつつしているのですが、あわれな生き物を殺して食べるからには、この生き物たちを成仏させてやりたいのです。そこで袈裟の功德でもって、成仏させようとして、こうして袈裟をつけたまま食事をしているので

す」と。

その言葉に時頼は深い感動を持って、たことでした。



時頼は、若くして実父時氏と死別したため、祖父・北条泰時に養育されたそうです。嘉禎三年（一二三七年）四月二日、11歳にして元服し征夷大將軍になっています。時頼は質素かつ堅実で、宗教心にも厚い人物であったようです。さらに執権権力を強化する一方で、御家人や民衆に対して善政を敷いた事は、名君として高く評価されています。その時頼が九歳の時と言ったことですので、この話は一二三五年のことになります。親鸞聖人六二歳の計算になります。

さてこの物語の真偽はわかりませんが、覚如上人は美談として書かれたのでしよう。さてそこで親鸞聖人が「袈裟の功德」ということを言われるのだろうか、疑問が残ります。私たちはお念仏によって仏になることができるのです。私たちも多くの命を奪って生きています。その命たちが成仏しなかつたら、多くの命は無駄死にです。私たちがお念仏をいただき、成仏する道を歩んでこそ本当の意味で多くの犠牲になった命を救うことができるのではないかと思います。どうか袈裟は脱ごうとも食前食後にはお念仏をいただきたいものです。

お念仏のしずく

自灯明、法灯明……



お釈迦様が、晩年に弟子たちに残す言葉として語られたという、有名な『遊行経』という經典の中にある言葉で、「自らを灯明とし、法を灯明として、他を灯明とすることなかれ。自らに帰依し、法に帰依して、他に帰依することなかれ。」『遊行経』（長阿含経）

自らを灯明とし、法を灯明とする。法とは真理ですね。その道理を灯明として、他を灯明とすることなかれ。次の文も前の文と同じ意味ですが、自らに帰依し、法に帰依して、他に帰依することなかれ、という有名な言葉があります。お釈迦様が語ったという、この言葉の意味を私なりの理解ですが、自らを灯明とすると、どこまでも自分の人生は自分で責任を取らななきゃならんのだと。これをまず教えていると思えますね。それを自らを灯明とせよと、こういうわけでしょう。しかし自分で灯明にする、自分で責任をとるといふその自分はいつても自己中心的に、エゴイズムに彩られておりますので、同時に、法を、道理を、人間普遍の原理を、同時に灯明にしなればならないと教えるのだと思えます。これをまた自らに帰依し、法に帰依せよというわけで、同じことを言っていると思うんです。

そのことをもう少し申しますと、この自らを灯明とする自己の人生は、自己が責任を取るといふ。これを縦軸と致しますならば、法を灯明とする、いわゆる人類普遍の原理に従う、これを横軸にして、そのクロスするところ、常に私達は立って生きていけよということ、教えているんだと思えますね。

「心の時代」

暮らしている中の仏教語

「お陰様で」

「お陰様で」は感謝の心を表す日常語です。「お陰」とは、神仏の助けや加護のこと、そこから、人から受ける恩恵や力添えをいうようになりました。

王舎城に住んでいたシンガラ力は亡父の遺言によって、毎朝、東西南北と上下の六方に礼拝をしていますが、意味は十分理解していませんでした。

お釈迦様は彼に対して、こう教えました。

「東方を拝むときは、私を産み育てて下さった父母に感謝し、南方を拝むときは、私を導いて下さった師に感謝し、西方は妻や子に、北方は友人に、上方は沙門に、下方は目下のものご苦労に感謝せよ。それが六方を礼拝する意味である。『六方礼経』」

仏教はすべてのものは相互に関係しあい、多くのものの力、お陰、恵みを受けて生きていくと説きます。だから当然、これらに感謝しようというのです。

お陰で、この間光も一〇四号を数えるに到りました。そのみならず住職の病気もどうか快方にむかい、元気になりつつあります。何もかも「お陰」様と手を合わせる毎日です。ありがとうございます。

安楽寺法要案内

--彼岸会法要・聴石忌--

日時 9月23日(金・祝)
朝座・昼座
講師 佐伯 正覚 寺
龍 潤 良孝 先生

--顕真・永代経法要--

日時 10月22日(土)
朝座・昼座
講師 豊島 登照 寺
服部 法樹 先生

--報恩講法要--

日時 11月26日(土)
朝座・昼座
講師 岐阜 願誓 寺
松橋 哲成 先生

時間 朝座10:00～・昼座13:00～

会場 安楽寺本堂

※昼食のご用意ができませんので、必要の方は各自用意をお願いいたします。
※新型コロナウイルスが感染拡大した場合、急遽中止する場合があります。